

姫路城城下町跡第 521 次発掘調査概要

資料提供日

令和 8 年 9 月 2 日(水曜日)

調査の概括事項

調 査 名：姫路城城下町跡第 521 次発掘調査

調査の内容：西側調査区

弥生時代の流路 1 条、

江戸時代の石列 1 基、井戸 2 基、土坑 10 基、ピット 3 基ほか

調 査 期 間：令和 8(2026)年 8 月 18 日（火）～9 月下旬予定

調 査 原 因：集合住宅建設

調 査 面 積：240.73 m²

遺跡の概要

調査地は姫路城の外曲輪南東部に位置し、城下町絵図によれば、江戸時代を通じて町人地であったことが示されている。現在の町名では「古二階町」となるが、江戸時代には「茶町」「和泉町」「とぎや町」といった名称が記されている。

過去に調査地の西側で実施された第 460 次調査では、井戸やカマド、石敷き、柵列などが確認されており、北側で実施された第 475 次調査では、石列や井戸と共に「ちや町すみや」と朱書きで屋号が記された磁器が出土しているなど、町家の遺構が多く確認されている地域である。

調査の概要

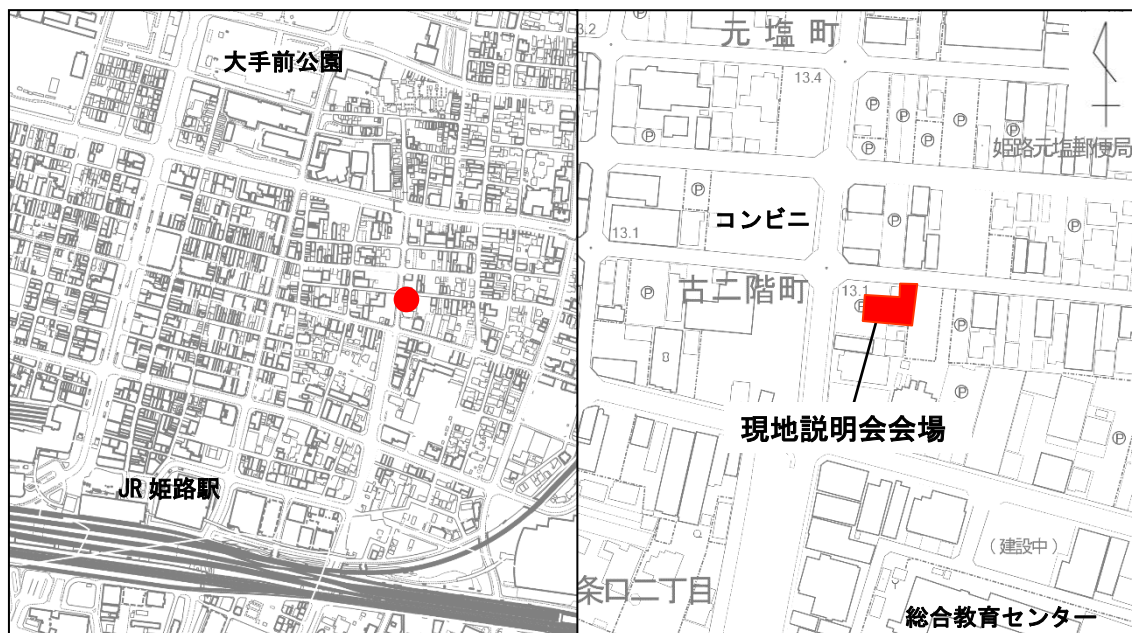
今回は、調査区を東西に分割して調査しており、西側では弥生時代の流路 1 条、江戸時代の石列 1 基、井戸 2 基、土坑 10 基、ピット 3 基などを検出した。西側の調査終了後、埋め戻して現在は、東側で調査を継続している。

- ・ 弥生時代の流路 弥生時代の流路跡、砂が堆積しており蛇行した状態で確認した。
埋土の中から弥生土器の細片が出土した。
- ・ 井戸 1 石組みの井戸で、直径約 1.7m を測る。
- ・ 石列 1 6 個の川原石を南北方向に並べており、延長約 1.1m を測る。屋敷境に直行しており、根太を据える礎石列の一部と考えられる。

今回の調査では、江戸時代の町人の生活を示す遺構が確認された。第 460 次調査や現況の町割りから推測すると、調査地は東西方向に細長い「うなぎの寝床」の町人地と考えられる。西側の街路に面して建物(ミセ)が位置し、その後ろに水回り(井戸)、さらに奥に中庭や

空閑地が広がるという当時の町家の基本構造と一致するものであり、姫路城城下町の町家構造の様相を追認する成果と言える。

また、弥生時代の自然流路を確認しており、城下町成立以前の地域を考える上で重要な成果となった。



調査区遠景（南から）



調査地全景（北から）



調査区西側全景(西から)



流路跡(南東から)



井戸跡(北西から)



石列跡(南から)